

あるま・めーと



愛・母(フランス語)ニ三愛精神の母校が絆

酪農学園関東甲信越同窓会

発行者 酪農学園関東甲信越同窓会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2丁目10番1号

東京交通会館 11階 酪農学園東京オフィス内

電話 03-6269-9955

発行責任者 関東甲信越同窓会会長 岡田 勉

パラダイムの変化と若い核(若い人、女性)を育もう!!



関東甲信越同窓会 会長
岡田 勉(酪農2期)

青色LEDノーベル賞受賞(赤崎、天野、中村)、おめでとうございます。

沈滞している社会の隅々に安く多彩な光を届ける開発はノーベル賞にふさわしい功績であると思います。2005年以前にはなかった光が開発されて以来、現在では世界の津々浦々に行き渡ろうとしています。名古屋大学、名城大学は東西の双璧大学をものともせず実践と実用化で名声を馳せました。

酪農大学でも、地域でも、日本でも、世界でも誇れる実用化の研究が欲しい。

政府は「地方創生、女性活用」を御旗に経済の活性化を推進している。農業は大型化、国際競争力を志向している。一方で食文化の発展を見ると、規模は小さくても「地域に根差したぴかりと光る一品」が国際競争力を持っていることはワイン、チーズを見てもわかる。生命維持の食材→健康維持の食材→楽しみの食材はそれぞれ役割が違うが、その生産方法も違う。日本は大型化では国際競争力は出しにくい、食文化を中心とした「楽しみの食材」で付加価値をあげる必要があるのではないかと酪農、畜産から展開しその地方で10,000円/100grの製品作りに磨きをかける必要があるのではない

か?世界の人々が旅費をかけて買いに来てくれる製品を創造する必要がある。こうした食品の道しるべを大学で指導してほしい。

IT化が確実に生活の場に浸透している。一方老人と言われる人が人口の1/3に達しようとしている。生産性が悪化している。人口は増えていかないから生産性を上げるにはIT化は欠かせない。どこの事業でもコンピューターのない事業は見当たらない。

これを駆使できるか、出来ないか(ITデバインド)で生産性は大きく異なる。特に事務、広報は大切なツールである。一回で5万人を集客できるAKB48の企画力に広報は見習う必要があるのではないかと思います。

酪農は1980年代の900万トンの生乳生産量が今年は600万トン代に落ちている。どう付加価値をつけるか大きな課題である。しかし一方でチーズの消費量は30万トンに近い数字となっている。内ナチュラルは60%で、プロセスは40%を切る数字となっている。量は勝つつで20万トンであるから確実にナチュラルが増えているのである。

7,000円/100grのハムは見かけるが、チーズもそれに近づける製品を作るのである。

以上述べたパラダイムシフトの仕組みを考え果敢に進めていくことが酪農大学の発展に寄与し、同窓生も老若男女、異業種、業種間、年代間、事業仲間、などの交流に積極的に企画

『あるま・めーと』第21号

参画し、「集いあい」「学びあい」「研鑽しあう」
ところに、誇りと自信がわいてくるものと期待
しています。

新しい核となる集まり、人材を見守っていき
ましょう。

今年の活動のトピックスは①茨城県支部の
再設立であったように思います。お疲れさまで
した。②毎年、新年に支部交流会を開催してい
ましたが、今年は大雪のため伊香保は1週間も
閉鎖されました。交流会は4月までずれこみま
した。③今年は関東同窓会設立以来41年目に
当たります。④5月からの旅費規定が変わり、
関東甲信越会長の招集する会には支部長の交
通費が支給となり、各活動にも申請により会場
費、通信費が支給されることとなりました。⑤
とわの森三愛高校の女子ソフトボールがイン
ターハイに出場、同窓会でも20名にのぼる声
援を送りました⑥栃木支部の齊藤先生がホーム
カミングデーで講演（昨年の長野の永井さん
に続いて）⑦11月8日には獣医学科創立50
周年記念講演会がありました。

発行日 2015年1月

「あるまめーと」第21号の発刊によせて



酪農学園同窓会連合会

会長 野村 武

酪農学園関東甲信越地区同
窓会の活動一環である、発刊
部数5,500部を誇る会報「あ
るまめーと」21号の発刊に心よりお喜び申
上げます。

貴会は、1都9県支部で大学、短大、高校
合わせ総計卒業生数5,623名（図1）に及ぶ
大所帯にもかかわらず、岡田勉会長を中心と
して7名の副会長の五十嵐建夫氏（東京都）、
後藤久雄氏（埼玉県）、齋藤達夫氏（栃木県）、
唐仁原景昭氏（千葉県）、北村直人氏（東京
都）、大津初司氏（群馬県）、田中可子氏（東
京都）がスクラムを組み、また城近泰事務局
長、渡会福次郎あるまめーと編集長らがそれ
ぞれ役割を果たしていただいております。

関東甲信越地区同窓会として強固なチーム
ワークに拠る先駆的な同窓会活動は他地区同
窓会の模範となっており、同窓会連合会とし
て深く敬意を表しております。

図1 支部別卒業生数(2013年 判明分)

支部名	大 学	大学院	短 大	高 校	支部計
茨城県	271	25	77	31	404
栃木県	339	18	104	24	485
群馬県	288	18	93	43	442
埼玉県	589	34	101	88	812
千葉県	519	40	113	80	752
東京都	807	71	135	109	1,122
神奈川県	526	46	103	90	765
新潟県	249	14	69	18	350
山梨県	49	2	17	8	76
長野県	295	18	68	34	415
計	3,932	286	880	525	5,623

2014年度の同窓会連合会理事・代議員会は、5月29日に酪農学園事務本館で開催されました。会議の前には「学園役員との懇談会」が開催され、麻田信二理事長から日頃の学園に対する同窓会の支援への謝意が述べられ、あわせて事業報告概要を含めて酪農学園の近況報告が行われた。懇談会では全国各地から出席した理事・代議員から質疑応答があり、学園側から丁寧な説明があり有意義な会となった。

その後、45名の出席により理事・代議員会が開催され、報告事項1号、審議事項1～5号が上程され、質疑応答ののちそれぞれ承認されました。

会議終了後、トンデンファーム経営（大学OB）の「笑山門」で学園役員も加わり和やかに懇親会が開催された。

2014年度同窓会連合会の主な事業目標として：Ⅰ、会則に基づく組織化の推進と財政健全化の確立 Ⅱ、地区支部同窓会活動の活性化推進 Ⅲ、母校支援のための歴史継承創設Ⅳ、2015年度「酪農学園同窓会」への統合準備、その中のⅡの活性化推進の具体策として1、地区別・支部同窓会会長会議の開催 2、長期活動休止支部への支部活動の活性化を計画 3、新支部の設置に向けての支援 等が挙げられています。

4、地区・支部への新たな助成項目は以下のとおり。

- ①地区・支部の要請による研修会における恩師の講師旅費交通費、
- ②地区会長の他支部総会への旅費交通費、
- ③地区総会への支部長の旅費交通費、
- ④地区・支部事業への活動費の助成（会員一人当たり1,000円助成金）

その他、前年度活動実績報告等による助成が適正と認められる項目

おわりに同窓会連合会は高校、短大、大学の3単位同窓会の組織、財政を含めた仮称「酪農学園同窓会」の2015年度に向けて統合を目指しています。

本会の組織強化・財務の健全化を確立して「会員相互の親睦」「全国を網羅する同窓会ネットワーク確立」「酪農学園の発展への寄与」を目指して行く所存ですので、皆様方のご協力、ご支援を宜しくお願いいたします。

酪農学園の現況について



酪農学園常務理事
福山 二仁

酪農学園は2013年（平成25年）10月1日に、幾多の先人のご努力により、大正・昭和・平成の時代を経て、創立80周年を迎えることができました。しかしながら、創立90年、100年を迎えるための、酪農学園を取り巻く現状を推測しますと、将来の高等教育マーケット予測（2012年～2025年）では、18歳人口は119万人と2017年までは横ばいで推移するが、その後減少トレンドに入り、2020年には117万人、2025年には大幅減の106万になると予測されています。約7年間で10万人減少し、大学進学率を50%とすると、大学進学者が5万人減少することになり、定員500人の大学が100校消失する可能性もはらんでいます。

2020年に向けた準備として、各大学はグローバル競争に対応した大学またはローカル化と個性化に対応した大学、さらには、難関総合大学（リーダー）、難関総合大学の受け皿大学（チャレンジャー）、差別化された小規模大学で就職・資格・語学・地域等に強い（カテゴリキラ）、のどのポジショニングをとるのか、さらには、マーケットの縮小時代に向けて①優秀な留学生の取り込み②他大学・短大との統合③大学間連携の拡大④社会人の学び直しニーズの獲得⑤仕事・業界に直結した高等教育⑥ICTの進化でどこでも学べる通信教育等々の課題を整理し取組みを図っていかなければならない環境にあります。

これらの環境要因に呼応するように文部科学省は、大学が人材育成・イノベーションの拠点として、教育研究機能を最大限に発揮してい

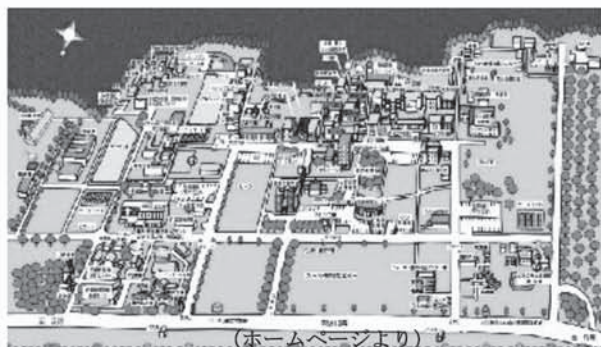
『あるま・めーと』第21号

くためには、学長のリーダーシップの下で、戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築することが重要であるとの考えに立ち、私学法の改正、学校教育法・同施行規則の改正、国立大学法人法・同施行規則の改正が打ち出されました。大学のガバナンス改革の推進の概要は、1. 学長のリーダーシップの確立、2. 学長の選考・業績評価、3. 学部長等の選考・業績評価、4. 教授会の役割の明確化、5. 監事の役割の明確化の5項目ですが、国は、学長のリーダーシップの確立と教職員の意識改革のため、効果的な制度改革とメリハリのある支援を実施する意向にあります。

このような酪農学園を取り巻く現状にあって、酪農学園のマーケティング戦略をどのように構築してゆくのが課題となりますが、学園のミッションである「三愛精神」「健土健民」を実現してゆくことは、他大学では持ち合わせないものであり、個性輝く大学に向けた戦略の構築であると考えます。従って、競合優位な独自性を確立するための事業戦略を PDCA サイクルに乗せ教職員が一体となって遂行してゆきます。

そのための施策として、創立80周年を契機に「酪農学園のめざす姿・創立100年に向けて」を策定し、さらにはその遂行のため「酪農学園のめざす姿・アクションプラン2014」により事業戦略を展開しております。

同窓生各位におかれましては、酪農学園の置かれている環境をご理解のうえ、今後とも、是非、ご支援・ご助言・ご指導を賜りますれば幸いです。宜しくお願い申し上げます。



(ホームページより)

発行日 2015年1月

一つの頂点を極め、

次を目指すソフトボール部



とわの森三愛高等学校

校長 榮 忍

2014年3月、とわの森三愛高等学校の女子ソフトボールチームは、春の選抜大会で全国優勝の快挙を成し遂げました。長年の悲願が達成されたのです。

春の選抜は、グラウンドの感触を忘れてしまいかねない冬を越えての大会だけに、善戦を期待しても優勝までは難しい、と一歩引いて日々の結果に注目していたのでした。一戦一戦が厳しいゲームであったこと、スコアの多くが一点差という結果は、もう十分に伝わっていることでしょう。選手たちの健闘は、特筆に値するものです。

春の選抜は、グラウンドの感触を忘れてしまいかねない冬を越えての大会だけに、善戦を期待しても優勝までは難しい、と一歩引いて日々の結果に注目していたのでした。一戦一戦が厳しいゲームであったこと、スコアの多くが一点差という結果は、もう十分に伝わっていることでしょう。選手たちの健闘は、特筆に値するものです。

学園理事長、江別市長、道知事への優勝報告、そして祝賀会と喜ばしい時を味わい、多くの方々から、賛辞が送られたことを誇らしく振り返るものです。その後臨んだインターハイは、春夏連覇の大きな期待を背負った大会となりました。

全道大会は、15年連続の代表権を獲得しましたが、当番校として多くの教員が運営を支え、見守る中での優勝でした。

決勝戦で相手チームにタイムリーを打たれ、詰め寄られた時が印象的でした。ピッチャー自らタイムを要求して、動揺を抑えようとした場面です。タイムリーを放った選手、そして相手チームの歓喜の様子と声援は、逆転されたかと思わせるほどで、本校チームへの評価を表していました。その後はしっかりと抑え、全国に歩を進めました。

すでに夏の全国は、結果が出ています。関東地区の多くの方々が応援に駆けつけて下さり、ご承知のことと思います。緒戦、7回で決着つかず、タイブレーカー。9回に先行されて、そ

『あるま・めーと』第21号

の裏無得点にて涙を吞みました。

連覇の期待という、これまで先輩たちも味わったことのないプレッシャーの中、よく戦いました。新たな経験を加えたエースピッチャーは、まだ2年生です。来年に向けて、新たな闘志を燃やしています。今後も、応援くださいますようお願いいたします。



『平成25年度総会報告』

本会の総会は、6月15日（日）さいたま市の別所沼会館にて埼玉県支部と共催で開催された。来賓として、麻田理事長・干場学長・野村同窓会連合会会長・同じく浦川事務局長・高澤東京オフィス所長の5名が出席され、挨拶の上とわの森三愛高校の女子ソフトボール全国制覇のうれしいニュースも、もたらされた。

第一号議案 平成25年度事業報告・会計報告 第二号議案平成26年度事業計画案・予算案 第三号議案 役員改選の件につき、いずれも承認された。しかし、5月末の同窓会連合会の会合で、地区会長の旅費交通費が助成対象になると決定されたにもかかわらず今年度の予算案に反映されていない、修正すべきではとの意見が出され、8月開催予定の役員会にて検討したい旨の回答が議長（会長）よりなされた。



発行日 2015年1月

恒例の特別講演は、小山久一特任教授の「酪農新技術としての性選別精液の利用と課題」であった。染色体や精子の分離方法等学生時代の講義が頭をよぎり、しばし、歳を忘れた。総会終了後懇親の場が設けられ、若手4人の初参加により懇親が深まった。

（事務局 城近 泰）



『忘れ得ぬ思い出交流会』



記念すべき茨城県支部の再設立総会が、感激のうちに終了した翌日、2月16日に交流会を予定していたが、かつてない大雪の猛威が関東を襲い中止のやむなきに至った。

その後、群馬県支部より是非再会して欲しい、会場の伊香保温泉千明仁泉亭（ちぎらげんせんてい）からも、いま一度お詫びの機会を設けて頂きたい旨の強い要望を受け、4月13・14日に同会場にて開催をした。

当日は、春爛漫の浮立つ雰囲気、桜並木を仰ぎ見て会場に入るは総勢23名。その中には安宅教授・野村会長・浦川事務局長・福山常務の姿が見て取れる。

『あるま・めーと』第21号

蔵を改造した部屋で全員の近況報告がなされ、見知らぬ同窓生の間にも和らいだ空気が流れた。その後入浴となったが、400年も続くという自慢の温泉は、深さ1M余もあり立ち話をするにはうってつけの感あり。



御膳が並ぶ広間にて、南雲前会長の乾杯の音頭で交流会は盛り上がり、若女将の挨拶にて再びなごやかさは増した。雪にての中止、桜の下での開催、立ち湯の語らい、酒と美味なる料理、実に思いで深き交流会であった。(事務局 城近泰)

発行日 2015年1月

関東甲信越同窓会平成26年度事業報告

月 日	事業内容
4月13日(日)～14日(月)	交流会
4月15日(火)	会計監査・役員会
6月15日(日)	定時総会
8月3日(日)	南関東総体女子ソフトボール応援
8月8日(金)	役員会
12月5日(金)	役員会・忘年会

新支部長ご紹介

茨城県支部 上野 達(短大10期)



茨城県支部再設立総会
出席者各位

平成26年度各支部主な事業報告

実施日	曜日	支部名	実行行事
2月15日	土	茨城県	再設立総会
4月5日	土	茨城県	花見会
5月17日	土	群馬県	定期総会
6月7日	土	長野県	定期総会
6月8日	日	山梨県	定期総会
6月15日	日	埼玉県	定期総会
7月5日	土	東京都	定期総会
7月6日	日	神奈川県	定期総会
7月12日	土	新潟県	定期総会
7月19日	土	埼玉県	高校フェア応援(～20日)
9月15日	月	白樺会	研修会
10月5日	日	長野県	ハヶ岳アルパカ牧場見学
11月22日	土	高校	高校同窓会
11月30日	日	茨城県	総会



イタリアンレストランチェーン
世界最大 1,300店舗以上

監査役
岡田 勉

株式会社サイゼリヤ
〒342-0008 埼玉県吉川市旭2-5
TEL.048(991)9611 FAX.048(991)9637
携帯:090-7265-6664
E-mail:T.Okada@saizeriya.co.jp

酪農2期

食品の衛生・安全・安心を供給する

理工協産株式会社

取締役エクリン営業部長 **小浦 隆文**

〒104-0028
東京都中央区八重洲2-8-1 日東紡ビル
tel 03-3281-8821 fax 03-3281-8215
URL <http://www.ricohkyosan.co.jp>

酪農13期

酪農学園同窓会連合会山梨県支部
昼間のうどん屋＜定休日 水・木＞
水墨・墨彩画教室

墨游庵 **高橋 僚一**

〒408-0036山梨県北杜市長坂町中丸2, 105-1
TEL. 0551-32-3076

酪農1期



富士食品工業株式会社

取締役生産部長 **渡辺 仁**

Hitooshi Watanabe

〒405-0013
山梨県山梨市穂尾寺170
TEL 0553-22-2611(代)
FAX 0553-22-4125
E-mail h-watanabe@fujisoku.co.jp

酪農22期

群馬県支部寄稿

～・酪農学園の丘に立っての雑感・～

大津 初司(短大16期)
＝関東甲信越同窓会 副会長
群馬県支部 理事＝



雲が肌寒い風を連れて北から南に流れ、冷たい雨交じりになると群馬県北部の私の里には冬が間近いことを知らされます。

北の地では雪の風景が映し出される報道を見るにつけ本格的な厳しい冬入りを告げています。

若きかの日々、北国の冬の生活を想いセンベイ布団の中で吹雪の音色を聞いた夜をなつかしく思い返しています。若き故なのか、歌の文句にあるごとく当時はそんなに寒くなかった感じが呼び起され？なつかしい。

去る9月13日(土)に毎年盛大に開催される「ホームカミングデー」に昨年に続き参加しました。前回は短大の閉校、記念碑の除幕式典や年に一度の校友、関係者等との交流が温かく行われたことに今年はもう少しゆとりの中での思い立って参加をしました。特に今回はこのイベントの重要な記念講演会に栃木県支部の齊藤達夫氏(酪農4期、現酪農とちぎJA・技術顧問)が「牛飼いの教員のあゆみ」と題して任に当たられるのをとらえての参加でした。

当日は全国各地からの仲間が多数かけつけ、学園の職員・関係者と入り交えて、バーベキューをはじめとして、豊かな食材、学園で飼養されたものや乳製品等に舌鼓して交流を図りま

発行日 2015年1月

した。多半は初対面にもかかわらず語れば誰れでもすぐに打ち解けて笑顔と声とともに若き日の学園のありし日々に戻されていきました。肉を焼く煙の中で親しく温かい交流が行われました。

会場を変えて、齊藤氏の講演に入り演題に沿って話が始められました。

氏は、卒業後地元の農業高校の教員として幅広く常に生徒と向き合うことを基本とし、心を一つに通うことに勤めながら懸命に取り組んだこと等を具体的に話を展開しました。

特に感銘したのは全国乳牛共進会にかける夢を追い、生徒と寝食を共に卒業生をも駆り立てながら長期に取り組み、栄冠をつかみ取るまでのストーリーは深い感銘とその努力に聞き入る人を共感させるのに十分でした。



氏は、話の中で酪農学園の精神を現場で実践し教えを忠実に広めたことです。学生当時は要請に応える施設、教材には乏しく、しかも経済状況の厳しい下でも酪農学園の果たす役割を自ら奮い起こしての発表に参加者一同は改めて酪農学園で学んだことの意義を強く認識させるに満足にできました。

酪農学園関東甲信越同窓会 副会長
群馬県支部 理事

短大16期

大津 初司

住所 〒377-0702

群馬県吾妻郡高山村中山 922

電話 0279-63-3253

酪農学園関東甲信越同窓会
群馬県支部 顧問

短大5期

須田 哲生

住所 〒370-3532

群馬県高崎市中里町 688-2

『あるま・めーと』第21号

ぜひ、参加して拝聴した者として各支部等の集いには機会をとらえて氏を招き、その行動とエネルギーを学んでほしいと薦めたい。

同窓生とは字の通り、同じ勉学にいそしむ者が窓辺から外を見ながら明日の・将来の夢や希望や、役割、任務をしっかりと見つめあった仲間の集団でもありましょう。何十年過ぎても、先輩でも、後輩でも逢い語り、ともに絆とぬくもりを交えることは大人として生きてゆく糧の下で極めてポイントは大きなものです。

身近な人、遠く離れている仲間との交流を重く受け止めながら頑張っていきたいものです。

とかく行事等の参企に課題はありますが、若き日に共に北の大地に自らが馳せた勇気と行動、エネルギーを思い起してほしいものです。

学園の中を自転車でめぐり見学した当日、今様浦島太郎でしたが、学園の丘に立つとトウモロコシ畑、大麻、札幌の風景は変わっても風や樹々、圃場の土壌までが優しく迎え入れてくれ、うれしく思うひと時と、かの日この地で学んだ幸せを十分に味わえ新たな活力を受けて丘を後にしました。



世界遺産 富岡製糸場

酪農学園関東甲信越同窓会
群馬県支部 顧問

短大9期

村田 文男

住所 〒371-0007

群馬県前橋市上泉町 3472-1

電話 0272-69-7884

発行日 2015年1月

＜三愛精神と母校＞

群馬県支部 大場 泰子

(酪農9期卒)

＝群馬県入試アドバイザー＝

あるまめーと編集委員会より突然の原稿依頼を気楽にお引き受け致し、私にとって苦でもないと後たが、そのようかく書かなければと筆をと



私にとっての母校は酪農大であり、青春のページが今の私を築いてくれ、素晴らしい精神として生きております。

実は『あるまめーと』の意味すらわからなかったのです。

『神・人・土』を愛する心を忘れてはいけません。支えられている心を大切にしたいと考えています。

前関東同窓会会長の南雲様からのご依頼で群馬県の入試アドバイザーをお引き受けいたし県下の高校を回っています。最初は何者という感じでしたが、最近やっと高校の先生方がザックバランに対応して下さるようになり「継続は力なり」「人との付き合いを大切に」等々しいといけません。『神・人を愛する心』が理解できるようになりました。

『土』を愛する心は地域そのものが生きるための基本中の基本、土のない地球なんて考えられません。今エコなどと騒いでおりますが、本学園は創立者黒澤先生の建学の精神が生きづいております。

入学当初より、黒土に興味があり、先生の『ミミズ』 ミミズ以外にも土壌動物・微生物の勉強をさせて頂いたこと、非常に貴重な体験であったと思っております。まさに酪農学園大学の使命であると確信しております。

少子高齢化と叫ばれている現代において本学園は厳しい社会環境の真ただ中にありま

す。

入学・卒業、同窓会と学園に携わった以上学園への協力を惜しみなく、協力をいたしたいと思っております。

今の私が生活できていることは関係者の皆様のお蔭と感じています。紙面をお借りして『ありがとう』の感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

酪農学園同窓会埼玉県支部

酪農12期

支部長 廣間 善之

〒344-0062 埼玉県春日部市柏壁東4-6-10

TEL・FAX 048-754-6347

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農4期

事務局長 齊藤 達夫

〒321-0404 栃木県宇都宮市芦沼町2762

tel. 028-674-2119

KVS CO.LTD今井家畜診療所
児玉家畜ETセンター

獣医5期

代表 今井 賢太郎

〒367-0253 埼玉県本庄市児玉町河内858-1

Tel:0495-78-0241 fax:0495-78-0509

●和牛体内受精卵の生産・販売(宅配可)
●牛体内受精卵の出張採卵(北関東のみ)

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農6期

副支部長 桑島 信也

〒321-0135 栃木県宇都宮市五代3-7-18

tel. 028-653-2625

太田屋牧場

酪農19期

太田屋 進

〒351-0033

埼玉県朝霞市浜崎390-27

tel&fax 048-456-1852

Email ootayafarm@yahoo.co.jp

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農1期

支部長 益子 勲

〒321-0135 宇都宮市五代三丁目5-43

tel. 028-653-9762

Kanamachi Animal Clinic
金町 アニマル クリニック

獣医15期

院長 増田 寿子

東京都葛飾区金町2-29-6 KACビル1F

Tel. 03-3609-7517 Fax. 03-3609-3515

文化庁選択無形民俗文化財 脚折雨乞行事の里鶴ヶ島市

雨乞行事は、夏季オリンピック開催年 平成28年8月7日

〒350-2213

鶴ヶ島市脚折1484-24

脚折雨乞行事保存会 委員 後藤 久雄

電話 049-286-2453

携帯 090-8327-2492

E-mail: hgo510@w7.dion.ne.jp

酪農学園同窓会連合会 関東甲信越地区 副会長

従農 農経科 一期卒(昭34年)



SHINJUKU VETERINARY CLINIC
新宿動物病院

獣医18期

院長

高橋 恒彦

本 院: 〒160-0022 東京都新宿区新宿7-11-5 けやきHOUSE2F
TEL 03-5272-1325 (代) FAX 03-5272-1676
豊島分院: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋4-26-11 ZASIF
TEL 03-5926-8181 (代) FAX 03-5926-8189
URL: http://www.shinjuku-veterinary.co.jp
E-mail: takahashi@shinjuku-veterinary.co.jp

酪農学園関東甲信越同窓会 役員名簿 (任期:平成25年12月~27年3月)			
会 長	岡田 勉	酪農2期	同窓会連合会副会長 千葉県支部顧問
副 会 長	五十嵐 建夫	農経3期	東京都支部長 (あるまめーと編集員)
	後藤 久雄	機農農経1期	埼玉県支部長
	齊藤 達夫	酪農4期	栃木県支部事務局長
	唐仁原 景昭	獣医2期	千葉県支部長
	北村 直人	獣医4期	東京都支部理事
	大津 初司	短大16期	群馬県支部副支部長
	田中 可子	三愛女子8期	東京都支部副支部長
事務局 長	城近 泰	酪農7期	埼玉県支部副支部長 (あるまめーと編集員)
事務局 長代行	小宮 俱子	獣医1期	埼玉県支部理事・監事兼務
事務局 次長	渡會 福次郎	酪農3期	埼玉県支部事務局長 (あるまめーと編集員)
会 計	作田 昌彦	酪農17期	神奈川県支部長
	益子 勲	酪農1期	栃木県支部長
	三田 孝幸	獣医6期	群馬県支部長
	平島 勝教	獣医7期	山梨県支部長
	石月 晋	酪農1期	新潟県支部長
	田中 清司	獣医5期	長野県支部長
	小松 泰史	獣医14期	白樺会代表
	満澤 恵治	機農農経21期	長野県副支部長
	加藤 効示	農経15期	栃木県支部庶務・会計
	小浦 隆文	酪農13期	千葉県支部監事
	西井 義昭	短大13期	東京都支部監事
	上野 達	短大10期	茨城県支部副支部長
	齊藤 洋	農経5期	神奈川県支部事務局長
	渡辺 仁	酪農21期	山梨県支部事務局長
	須田 利明	機農農経1期	後援会常務理事
	高澤 靖	農経6期	千葉県支部理事 (あるまめーと編集員)
	佐々木 六朗	短大11期	埼玉県支部監事
	志村 智子	短大33期	あるまめーと編集員
	野島 加代子	三愛女子7期	埼玉県支部副支部長
	角 真知子	三愛女子9期	神奈川県支部理事
	福山 二仁	獣医3期	東京都支部理事
	中島 剛	酪農3期	東京都支部理事
	平岡 征雄	農経3期	神奈川県支部顧問
	廣間 喜之	酪農12期	埼玉県支部長
	古田 修吾	酪農学園創期	東京都
	八重樫 鉄男	短大1期	静岡県
	草地 道一	短大1期	東京都
	戸水 雅智	短大3期	東京都
	野田 修平	短大6期	東京都
	南雲 良三	短大8期	埼玉県
	安達 宗之介	酪農3期	神奈川県
	平山 久	短大6期	栃木県



日本獣医生命科学大学客員教授・顧問
酪農学園大学獣医学部特任教授
農場管理獣医師協会会長
酪農学園大学獣医学部同窓会会長
公益社団法人日本獣医師会顧問

獣医4期

獣医学博士 獣 医 師

北村 直人

衆議院前議員(昭和61年~平成17年)

自宅 〒158-0081 東京都世田谷区深沢4丁目1-1-412
TEL 03-5707-2517(FAX)

株式会社ゼンチク販売

代表取締役
社 長

川上 幸二

〒140-0001 東京都品川区北品川1-8-11
ダヴィンチ品川Ⅱ 8F
TEL 03-5783-7401(代表)
FAX 03-5783-7410

酪農13期

ケペル動物病院

院長
獣医師 **大橋 透**

〒165-0027 東京都中野区野方6-6-2
tel. 03-3338-3554

獣医15期

佐藤建設株式会社

取締役社長 **佐藤 明夫**

〒140-0001 東京都品川区北品川 3-5-5
電話 03-5463-9931
FAX 03-5463-9933
E-mail: gsp27629@nifty.com

農経12期

編集後記 2014年は2月に茨城県支部が再発足し、関東地区1都6県と甲信越地区3県の10支部が名実と共に活動を開始しました。今後の本会発展のために「あるまめーと」も寄与していきたいと思っておりますので、会員の皆様の投稿をお願いします。